

五周年を迎えて

湊川隧道保存友の会 会長 神吉 和夫

湊川隧道保存友の会が正式に発足したのは平成13年七夕だから、今年の夏で満五周年を迎えることになります。知る人ぞ知る存在であった湊川隧道。その知名度向上に私どもの活動が多大な貢献をしたものと自負しています。

平成14年10月、会員限定の湊川隧道内部見学会。馬場俊介先生(岡山大)と久武勝保先生(近畿大)から隧道の説明がありました。翌11月、新湊川災害復旧事業の竣工を記念した一般公開には2,500名を超える方が見学に来られました。会員有志と役員・幹事は隧道の説明、交通整理、資料の配付、煉瓦の販売などで大わらわでした。「101年の時間旅行」と大きくマスコミ報道されたことが、湊川隧道を一躍有名にしたのではないかと思います。平成15年11月に実施した隧道内ミニコンサートも大きな話題となりました。このイベントは本会が主催団体ですが、兵庫県神戸県民局、新湊川を守り育てる会、および土木学会関西支部が後援団体でした。

本会の会員数は百数十人規模、法人会員も多いときで11社です。大きなイベントをするには人的・財政的に難しい状況です。財政面では平成14年度は大成建設歴史環境基金、平成15年度は「はーとふるふあんど」の助成を得ています。また、本会の活動には湊川隧道を管理する神戸県民局、より具体的には神戸土木事務所所属の会員の献身的な努力に負うところも大きかったと思います。しかし、それら会員の多くは転勤され、神戸の地を遠く離れた方もおられます。また新湊川の整備や石井ダム完成などにより、神戸土木事務所内で湊川隧道を担当していた係も縮小もされるようです。さらに、本会だけでなく他の団体による湊川隧道を利用するイベントも増えてきました。

こうした背景を考慮し、今後の会の目的やあり方について役員・幹事会で議論を重ねてきました。議論では、当初目的が達成されたとして発展的に解消してはどうか、また、「新湊川を守り育てる会」との合併案も話題になりました。そして、平成18年1月の役員・幹事会において、今後の活動方針(案)として、従来実施していた7月の講演会を中止し、年5回の一般公開、それも派手なイベントをともなわないものにすることを私から提案しました。このことに対して役員・幹事の皆さんから賛同をいただいたことは、提案者として大変嬉しいことでした。

さて、この提案の中には神戸県民局とのアドプト協定締結の件も含まれていました。そこで窓口の神戸土木事務所に問い合わせると、既に私たちの今後の活動内容をよく理解していただいており、むしろ公開頻度を多くしてほしいことや、積極的に活動を支援することを検討していることを聽かされました。

この間のいきさつは、本会設立当初からご尽力いただいている副会長の本地真穂さんが、知事さんとの面談の機会に友の会の活動内容を話題にしてもらったことがきっかけであったことが、後からわかりました。「月刊センター」編集長として、永年にわたり地域に根付く地道な活動をしてこられた本地さんご自身の湊川隧道にかける想いが知事さんに通じたことや神戸県民局のご配慮に深く感謝申し上げます。

明治期の神戸市民が造り、いまは貴重な歴史遺産として保存されている湊川隧道。これから多くの人々が訪れ、感動を胸にお帰りいただけるよう活動していくうではありませんか。

主な行事報告

『隧道の記憶』

講師：島田 誠氏（アート・サポート・センター神戸）

平成17年3月20日に開催した総会では、島田誠氏に市民の誇りとしての文化をどう作り出すかを海外の事例などを紹介しながらわかりやすくお話をいただいた。島田氏は、アート・エイド・神戸やアート・サポート・センター神戸を立ち上げるなど、震災都市神戸の芸術文化の分野で積極的に活動され、著作も数多い。以下は、講演要旨の一部です。

- ・1900年、20世紀の幕開け当時の報知新聞の大予言の未来予測は当たったか？「鉄道のスピード時速240km東京—神戸2時間半」「市街鉄道は空中・地下へ」「天災1か月前予測」「身長は180cm以上に」「獣語が話せる」「自動車の世界に」などなど
- ・湊川隧道は、450万個のレンガで出来た公共文化財



- ・私たちが後世に残すものの中には、形あるもののに内村鑑三が思想の種をまいたように目に見えないものもある。
- ・フランスのマントのように、文化的イベントがまち全体の雰囲気を変えていった町もある。
- ・フランスでは国家が芸術文化を支えており、食、ファッション、ワインなど他のジャンルと密接につながることで、重層的なまち、歴史が出来上がっている。
- ・日本では、サントリーホールのように企業が文化をリードしている。
- ・市民が文化を担うことも大事であり、神戸では市民一人一人が‘文化の煉瓦’を積むことで、自律市民が誕生している。

『戦前の近代建築の耐震性を考える』

講師：西澤 英和氏（京都大学 工学部講師）

平成17年7月に開催した講演会では、西澤先生に、日本の伝統的木造住宅などの耐震性について興味深くお話をいただいた。以下は、講演要旨の一部です。

阪神大震災で犠牲者の9割は木造家屋の倒壊による圧死とされている。これら被災家屋の大部分は戦後に建設されたもので、その構造や仕様は戦後の建築規則に基づいていた。従って、今回被災した戦後の木造住宅は、戦前まであった伝統木造建築とは構造的に相当異なっていた。震災後、日本の伝統木造建築には耐震性がないという議論が盛んであるが、これは学術的に証明されているのだろうか。何百年もの間、幾多の震災など自然災害に耐えた木造社寺建築は数え切れず、江戸時代に建てられた民家や町屋などの木造家屋も少なくない。もし日本の伝統的な木造建築が本当に耐震的に劣るなら、度重なる激震に耐えて千年以上も残るはずがない。ただ、現代人はそのような工芸の英知を十分に理解できていないだけではないだろうか。RC造建築にしても大被害を受けたが、戦前の学校校舎が無被害で残った例が多数あった。RC造建築の耐震構造技術が低下し、関東大震災前の水準に戻ったものがあった。日本は世界に誇るべき歴史と文化を破棄し、狭い国土でスクラップ＆ビルトを繰り返してきた。それが現在日本の本当の姿だという事を知る必要がある。ヨーロッパ、アメリカの建築・土木の教育は歴史教育である。日本はどういう歴史、文化を誇りうるかということを誰もが意識し、国の本当の文化的な共有感というものを演出していくのが建築であり土木である。

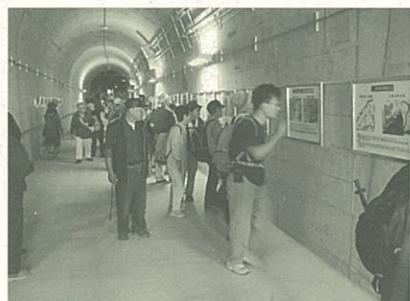


新湊川ウォーク

平成17年11月3日の文化の日に、神戸電鉄主催の「新湊川ウォーク」が開催されました。

コースは、平成16年11月に開催された神戸県民局主催の新湊川ウォークと同じで、石井ダムから新湊川沿いに長田橋までの9km。約660名の参加がありました。

湊川隧道保存友の会は、このイベントに協力して湊川隧道の一般公開を行い、12名の役員・幹事と15名のボランティアにより、誘導、案内や湊川隧道の説明を行いました。

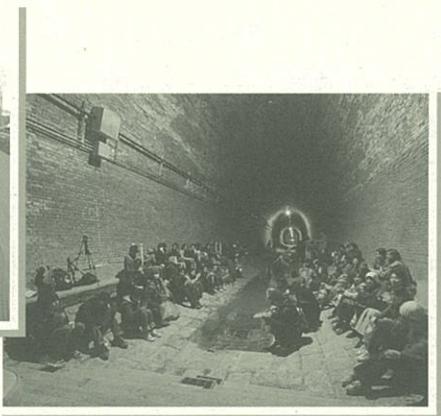


湊川隧道の饗宴

湊川を埋め立てた新開地が産声をあげて100年になるのを記念して、神戸アートビレッジセンターが「新開地生誕100年の饗宴」を企画運営し、平成17年11月～12月に新開地周辺で4つの饗宴が開催されました。

その饗宴の一つが、11月23日（水・祝）に開催された「湊川隧道の饗宴」で、二部構成で行われ、一部（11時～15時）では湊川隧道の公開に約600名の参加がありました。二部（16時～19時）では、参加者を100名に限定した会費制（1,500円）で、のこぎり奏者サキタハジメ氏によるコンサート、新開地名物の豚まんや串かつなどを食べる祝宴が行われました。

のこぎりコンサートは、サキタハジメ氏が隧道内を移動して演奏し、参加者は煉瓦づくりの隧道に響き渡るのこぎりの音色を楽しみました。



写真提供／神戸アートビレッジセンター
撮影／高嶋 清俊

ひとこと

役員・幹事から



湊川隧道保存友の会 ～今後の活動について～

湊川隧道保存友の会
理事 吾妻 義信

兵庫区湊川町9丁目1番地ノ1が湊川隧道（会下山トンネル）の所在地。ちょうど一世紀の間、河川トンネルとして活躍し、その役目を終えた。

平成13年7月7日湊川隧道保存友の会が発足し、5年を迎えることになる。地域の皆さんとともに自分たちの宝、資産だという思いで、参加と協働のもと活動して行きたいと思っています。

平成15年6月6日には新湊川守り育てる会が発足しました。新湊川守り育てる会は新湊川を管理する行政と養子縁組「アドプト協定」を結んでいます。

湊川隧道の利活用も年5回程度公開することになります。両方の役員をしている私としては、2つの活動が「憩いと交流の場」となり地域の活性化につながるよう取り組んでいくことを考えたい。

また、県内、特に市内小学校児童に防災学習、環境学習の場として知識を育てて頂きたいと思っています。

地域の人々が集い、喜びと感動が共有できる「楽しいまち」をめざし、みんなで目標を立てくらしづくりに取り組みましょう。



5周年に思う

湊川隧道保存友の会
幹事 池田 純作

湊川隧道保存友の会が発足したのは5年前、手さぐり状態でのスタートが関係者各位のご協力、ご努力によって軌道に乗ってきた今日があるように思います。

少し残念なことは、発会当時からの意気込みと努力に相応してトンネル及び会の知名度が上がってないのではないかと懸念を感じることです。

ただ、このたび嬉しい話として、不評だった隧道内の砂利敷の通路を、日光の尾瀬沼と同じような木道（幅2.5メートル）にする整備工事が3月中旬に完成すると聞き及んでいます。

この整備によって隧道内での歩行が静かで歩きやすく、また砂ぼこりも立たなくなるなど環境が大きく改善されます。そこで、今後のPR活動の起爆剤のひとつとして、隧道内掲示パネル類及び展示方法等の再検討を行い、スッキリと垢抜けしたものにリニューアルしてはどうでしょう。

例えば、①説明用啓発看板は文言を簡潔にしてアイキャッチャーに留意する。②手持ちの財産を活用する。トンネル工事の際に発生した湊川隧道の煉瓦壁のくり抜いたコア2個を木製台に乗せて展示する。（直径50cm、厚さ60cmで見る人の感動、感銘は必定）③記念煉瓦の販売促進。売り場の位置を煉瓦コア展示と並べることで、煉瓦の価値を良くわかってもらう。（この場合、煉瓦販売場所の向かい側にはパネル類は置かないようとする。）

節目の5周年を迎え、心を新たにして努力をしたいと考えております。会員のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

神戸県民局からのお知らせ

湊川隧道（会下山トンネル）木製通路整備について

神戸県民局神戸土木事務所

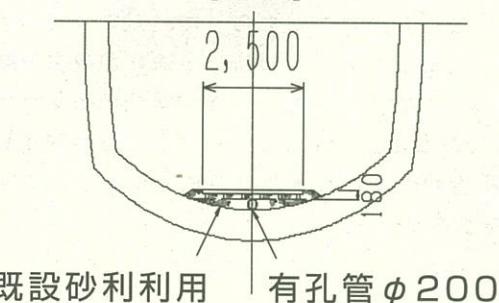
明治34年（1901年）に我が国最初の河川トンネルとして竣工した湊川隧道は、地域の文化を継承する貴重な近代土木遺産として保存されるとともに、見学・ミニコンサート・隧道に因んだイベント等が開催されるなど活用がはかられています。

現在、トンネル内部は下盤に碎石を敷いて通路にしていますが、高齢者・幼児及び車いすの通行に支障があるため、より安全に通行等ができるように木製通路の整備を行なっています。

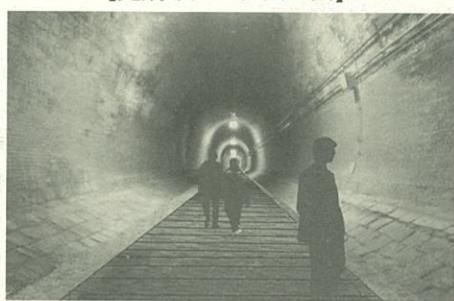
整備内容は、内壁レンガにマッチするように施工性・経済性に優れた兵庫県産の間伐材を使い、トンネル中心部（約170m）までの間は、管理車両が通行出来るように幅員は2.5mを確保します。それから奥側は、現在の碎石を撤去して築造当時の石畳が見えるようにします。

なお、工事は平成18年4月に完成し一般公開する予定です。

【断面図】



【完成イメージパース】



地域の紹介①

新湊川を守り育てる会

「湊川隧道保存友の会」より少し遅れて誕生し、これまで行事などで相互に協力しあっている団体が「新湊川を守り育てる会」です。以下、友の会の理事でもある川崎芳雄会長からお聞きした活動内容を紹介します。新湊川は、平成14年11月に災害復旧工事が完了して震災前の様子とは大きく様変わりした。当時、兵庫県神戸土木事務所から川沿いの遊歩道にプランターを置いて「花一杯運動」に取り組むよう依頼があり、東山町を中心に地域づくりの一環として組織づくりを始め、平成15年4月に「新湊川を守り育てる会」として発足したそうです。

現在、会員（年会費500円）は約290名、賛助会員（1口550円10口以上）として30社の自営業や商店等の方々に協力・支援をいただいていること。活動内容は、月に3～4回の清掃、水やり、川の中に入ってのゴミ拾いやイベントの共催など。

清掃活動には毎回約40人の会員が参加しているそうです。活動を始めた頃は、夜中に花が抜き去られたりプランターが傷着けられたりしましたが、最近では、川中の遊歩道には犬の糞がたくさん捨てられ、飼い主のマナーの悪さには皆さん憤慨しているとのこと。しかしここれまでの会員の熱心な活動が認められ、平成17年3月に兵庫県知事から感謝状を、さらに平成17年12月には兵庫県から「のじぎく賞」を受賞し、会員の大きな励みになっているそうです。今後も、湊川隧道保存友の会と連携しながら、会員が気持ちを一つにしてまちづくり、地域のコミュニティづくりに取り組んでいきたいとのことです。

（次回は、「湊九」こと湊川町9丁目自治会を紹介します。）



新開地100年

園田学園女子大学教授 田辺 真人

40年ほど前まで神戸の私鉄は各社のターミナルがばらばらで、お互いに乗り継ぐことができなかった。東から来る阪神は元町、阪急は三宮、西から来る山陽電車は兵庫駅、北からの神戸電鉄は湊川が終着駅だった。それらをどう接続させるかという大問題を解決したのが、1968年に開通した神戸高速鉄道で、東西に走る3つの私鉄を地下軌道で連結して、それぞれの電車を相互乗り入れさせ、神戸電鉄線からは線路を南に伸ばして神鉄電車を乗り入れさせて、新開地駅で東西線に乗り換え可能にしたのである。この連結路線が神戸高速鉄道で、線路は持つが車輪を持たないユニークな鉄道会社になり、新開地駅はすべての私鉄が接続する駅となったのである。

この新開地駅東口と湊川駅とを結ぶ線の地上に伸びているのが新開地本通の商店街の北半分で、新開地駅東口より南に続く南半分も合わせて、かつては映画館や飲食店がひしめく神戸随一の繁華街だった。さらに明治以前はこの街路が、湊川の流路であった。

旧湊川は明治中期までここを南に流れて今のハーバーランドの西で海に入っていたが、神戸と兵庫の町を分断する天井川であり、雨が降ると神戸港の真ん中に泥水を流し込むこともあって、荒田から西に約2キロの水路を掘って5年がかりで西方を流れる長田の苅藻川に流し込まれた。この新しい流れが現在の新湊川で、1901年にこの工事は完成した。旧河川跡は南北に走る帶状の空白地帯になり、湊川新開地と名付けられた。新開地の本格的発展は1905年からで、まる百年前のことであった。そのころヨーロッパで映画が発明され、いち早く神戸に上陸。この新造成地に人々と活動写真の小屋が建てられた。その象徴が東京の帝国劇場の向こうを張った聚落館で、この街から育った一人が淀川長治氏であった。

湊川隧道について その5

湊川隧道（会下山トンネル）と周辺の地形・地質

佐々木 良作（兵庫県但馬県民局）

新湊川トンネルは、明治期に築造された湊川隧道（会下山トンネル）の北側に新しく建設された。

トンネル工事中の切羽の地山は、粘土や砂、小石が混じり堅く固まった土砂であった。これらは、50～100万年前に大阪湾周辺一帯に堆積したとされる地層の一部であり、六甲山地の隆起に伴い陸地になったものである。会下山は、右横ずれしながら断層面を境に北側が沈むといった会下山断層の活動によって、大倉山と同じように‘ふくらみ’地形として出来上がったとされる。こうした‘ふくらみ’に対して、相対的に低くなるところも出来ることになるが、石井川と天王谷川の合流する付近一帯が荒田低地と呼ばれる地域がそれである。会下山断層は、諏訪山断層の西側にあたり、震災前から活断層の専門家の調査対象になっていた。その方向は、諏訪山～大倉山北側～湊川隧道呑口付近～夢野台高校北側～長田高校北側あたりとされている。

一方、夢野の山麓は、奥平野などと同じように長田山断層崖下の扇状地が段丘状になっており、いくつもの谷が入り込み、起伏の多い地形になっている。明治期の終わり頃から宅地化されてきたが、これまで大規模な土地造成がされていないので、付近を歩けば、通りや路地の坂道、宅地の高低差などから昔の凹凸地形が読みとれる。

さて、新湊川トンネルの呑口（上流側）付近を掘り進めば会下山断層と斜交することになるので、地山の地質変化に注意しながら施工された。案の定、神鉄の軌道付近の約120m間は、地層の変化が目まぐるしく、10m程度しか離れていない左右にある先進導坑の切羽ではいつも地質が異なっていた。これは、過去何十万年もの間の隆起運動や会下山断層の活動によって地層の傾斜やいくつものズレが生じたことの反映であろう。こうした傾向は、会下山断層の延長線位置にあたる神戸山手線長田トンネルの掘削現場でも類推されている。

ところで、現代のような科学的な調査手法を持たない明治期の先人達は、トンネル掘削に先だって、どのように地質（土質）の予測、判断をしていたのであろうか。湊川隧道のルートは、前述した会下山断層により直接的に影響を受けたとされる複雑な地質の地山をうまく避けて選定されているようにも思えるのだが……。

平成17年度の行事記録

！平成17年7月18日（月・祝日）講演会

場 所：新湊川河川防災ステーション（新湊川ふれあい会館）

内 容：演題 「戦前の近代建築の耐震性を考える」→2ページの記事を参照して下さい。

講師 西澤 英和 先生（京都大学講師）

参加者：約70名

！平成17年11月3日（木・文化の日）湊川隧道一般公開

（神戸電鉄主催「新湊川ウォーク」の一環として）

内 容：「隧道内見学」、「パネル展示」、「レンガ販売」等 →3ページの記事を参照して下さい。

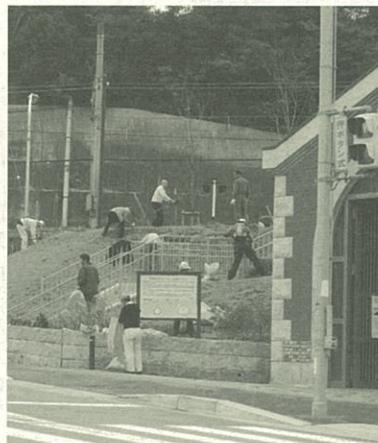
参加者：約660名

！平成17年11月23日（水・勤労感謝の日）清掃活動

場 所：湊川隧道と周辺

内 容：草刈り、隧道内および新湊川周辺の清掃

参加者：湊川隧道保存友の会会員 約20名



！平成17年11月23日（水・勤労感謝の日）新開地生誕100年・湊川隧道の饗宴

場 所：湊川隧道内

内 容：隧道の見学（参加者：約600名）、新開地生誕100年パーティ（100名限定でノコギリコンサート、新開地名物フルコース（豚まん、串カツなど））→3ページの記事を参照して下さい。

主 催：神戸アートビレッジセンター、藤木由起夫プロデュース

！平成18年1月18日（土）湊川隧道保存友の会・総会

場 所：新湊川河川防災ステーション（新湊川ふれあい会館）

内 容：講演「岩盤内地下空間における新しい芸術と音楽」

講師 櫻井 春輔 先生（神戸大学名誉教授）

参加者：約70名（予定）

平成18年度の行事予定

◆湊川隧道一般公開

年間10回程度を予定

(※会の活動内容を見直しており、詳細については別途お知らせします。)

◆平成18年7月下旬 湊川隧道保存友の会・総会

場 所：新湊川河川防災ステーション（新湊川ふれあい会館）

内 容：総会に併せて「講演会」を予定

(※会の活動内容を見直しており、詳細については別途お知らせします。)

◆平成17年11月19日（日）湊川隧道一般公開

(神戸電鉄主催「新湊川ウォーク」の一環として共催)

場 所：湊川隧道内

内 容：「隧道内見学」、「パネル展示」、「レンガ販売」等により「新湊川ウォーク」に協力

連絡事項

☆レンガの在庫が少なくなりました！

レンガは、新湊川トンネル建設時に湊川隧道（会下山トンネル）の一部を取り壊した際に発生したもので、有志で約200個のレンガをモルタルや汚れを取り除いて商品化（？）し、1,200円で頒布しています。収益は活動資金として活用しています。在庫が残り少なくなりましたので、希望者はお早めにどうぞ。

☆会費の納入および新規会員募集について

現在、役員・幹事会において今後の会のあり方等を検討、協議しています。

3月の総会時に提案説明する予定であり、会員のご意見等を参考にしながら決定していきます。
決まりましたら改めてお知らせしますので、よろしくお願ひいたします。

☆平成18年3月現在の法人会員の紹介（五十音順）

株式会社 エイトコンサルタント 株式会社 建設技術研究所

株式会社 サニー商工 大成建設株式会社

西松建設株式会社 日本振興株式会社

【編集後記】

平成14年3月に「天長地久」第1号の編集を担当して以来、再び第5号を担当しましたが、第1号の頃が遠い昔のように感じられます。現在、会の活動内容の見直しや隧道内歩行通路の化粧直しがされるなど転換期にあたっていますが、引き続き会員の皆さんのご協力をよろしくお願いします。（R. S）